

論文 / 著書情報
Article / Book Information

題目(和文)	非営利活動法人の持続的事業戦略の実証的導出 - NPO法人タウンモバイルネットワーク北九州を事例として -
Title(English)	
著者(和文)	中村寛樹
Author(English)	Hiroki Nakamura
出典(和文)	学位:博士(工学), 学位授与機関:東京工業大学, 報告番号:甲第9636号, 授与年月日:2014年9月25日, 学位の種別:課程博士, 審査員:阿部 直也,高田 潤一,山下 幸彦,花岡 伸也,西條 美紀
Citation(English)	Degree:., Conferring organization: Tokyo Institute of Technology, Report number:甲第9636号, Conferred date:2014/9/25, Degree Type:Course doctor, Examiner:,,,,,
学位種別(和文)	博士論文
Category(English)	Doctoral Thesis
種別(和文)	審査の要旨
Type(English)	Exam Summary

(博士課程)

論文審査の要旨及び審査員

報告番号	甲第	号	学位申請者氏名	中村 寛樹		
		氏名	職名		氏名	職名
論文審査 審査員	主査	阿部 直也	准教授	審査員	西條 美紀	教授
	審査員	高田 潤一	教授			
		山下 幸彦	准教授			
		花岡 伸也	准教授			

論文審査の要旨 (2000 字程度)

本論文は、「非営利活動法人の持続的事業戦略の実証的導出—NPO 法人タウンモービルネットワーク北九州を事例として—」と題し、全7章により構成されている。

第1章は「序論」と題し、本論文で取り組む課題やその背景、研究目的、アプローチについて述べている。特に、本論は「持続的事業戦略」を「異なる価値観を持つ複数の主体および事業を束ねる協働の仕組みを構築するため、事業が変遷する過程において、自らの価値観を保持し続け、採算性と社会的便益性を同時に実現したうえで機動的な運営手法により、事業更新を継続的に行っていくこと」と定義し、当該法人の事業の(1)変遷、(2)価値、(3)運営、(4)更新の四つの点に着目する本論の分析アプローチを設定している。

第2章は「事業主体としての非営利活動法人と都市の短距離交通に関する文献レビュー」と題し、本論文に関連する既往研究のレビューを行っている。具体的には、事業の公益性、事業の主体となりうる組織、その中でも、非営利活動法人の特徴と役割について整理した。また、多くの分野にまたがる事業の中でも、特に、本研究と深く関係する都市の短距離交通事業に着目して、自転車関連事業の運営手法と運営主体に関する文献のレビューを行い、本研究の位置づけを明確にしている。

第3章は「北九州の非営利活動法人の事業概要・変遷」と題し、「(1)変遷」に対応して、北九州の非営利活動法人による多様な事業とその変遷について整理している。まず、当該法人のミッションと、組織としての財務構造を明らかにし、その後、時系列に沿って事業を整理し、事業変遷の過程でも変わらぬ当該法人のミッションを前提として、各事業の特徴や関連性を明らかにしている。

第4章は「北九州における電動アシスト自転車シェア事業の利用者分析と事業価値」と題し、「(2)価値」に対応し、特に電動アシスト自転車シェア事業を対象を絞って分析している。当該非営利法人にとって新しい事業である自転車シェア事業は、交通手段やシステム、スペースを地域でシェアするというコンセプトを有するため、その利用者は、単なる交通手段としての関心から利用しているグループと、環境問題やエネルギー問題、地域などへの幅広い関心から利用しているグループが存在することが明らかにしている。その結果、利用者視点から事業の価値を明らかにすると同時に、それを基に今後の事業展開への示唆を明らかにしている。

第5章は「北九州の非営利活動法人による事業運営戦略とその評価」と題し、「(3)運営」に対応し、主に財務面の点から非営利活動法人の運営戦略について分析・考察している。具体的には、まず、電動アシスト自転車シェア事業の採算性と社会的便益について評価し、非営利活動法人の運営面における課題を明らかにしている。その後、駐輪場事業の運営ノウハウを生かし、運営費の削減を実現する駐輪場事業と電動アシスト自転車シェア事業の一体的運営戦略に着目し、その評価を行うことで、当該法人の事業運営戦略を定量的に分析・考察している。さらに、資産としての電動アシスト自転車に着目し、その所有費用を考慮した資産管理の方策について考察している。

第6章は「北九州の非営利活動法人による事業更新戦略」と題し、「(4)更新」に対応し、前章で資産として焦点をあてた電動アシスト自転車に関して、当該法人が今後持続的に事業を運営していく中で、着目する交通手段として引き続き重きを置く方針と、新製品開発に伴って他の交通手段にも着目する方針を比較しつつ、当該法人の今後の事業更新の戦略について考察している。具体的には、観光地に

において、新しく多様な短距離交通手段レンタル事業を短期間実施し、その多様な短距離交通手段の選択における利用者の評価基準と意思決定について分析・考察している。

最後に、第7章は「結論」と題し、着目した事例研究を通じて、都市の短距離交通システムに貢献する非営利活動法人の持続的事業戦略について、(1)変遷、(2)価値、(3)運営、(4)更新の四つの視点に対応した考察をおこなっている。その結果、行政や民間企業といった異なる行動原理をもつ異なる主体との連携・協働の実績の蓄積の重要性に加えて、非営利活動法人としてのミッションを保持し、収益性の高い事業だけでなく非営利事業を適切に組み合わせる重要性を指摘している。また、利用者の視点から事業の価値を探り、利用者のデマンドやニーズを踏まえ組織の発展の方向性を探る重要性について明らかにしている。しかし、民間企業などによる新たな製品開発に伴い、社会の状況が変化した場合には柔軟に対応し、既存事業の延長線上で事業を更新する必要性を明らかにしている。

以上を要するに、本論文は北九州市において、自転車に関連した都市の短距離交通に貢献する事業を実施している非営利活動法人に着目した詳細な事例研究を通じて、当該非営利活動法人の事業変遷、事業価値の特徴を明らかにし、事業更新のための持続的事業戦略の基本的要件を明らかにしており、工学上貢献するところが大きい。よって、本論文は博士(工学)の学位論文として十分価値があるものと認められる。

注意：「論文審査の要旨及び審査員」は、東工大リサーチポジトリ(T2R2)にてインターネット公表されますので、公表可能な範囲の内容で作成してください。